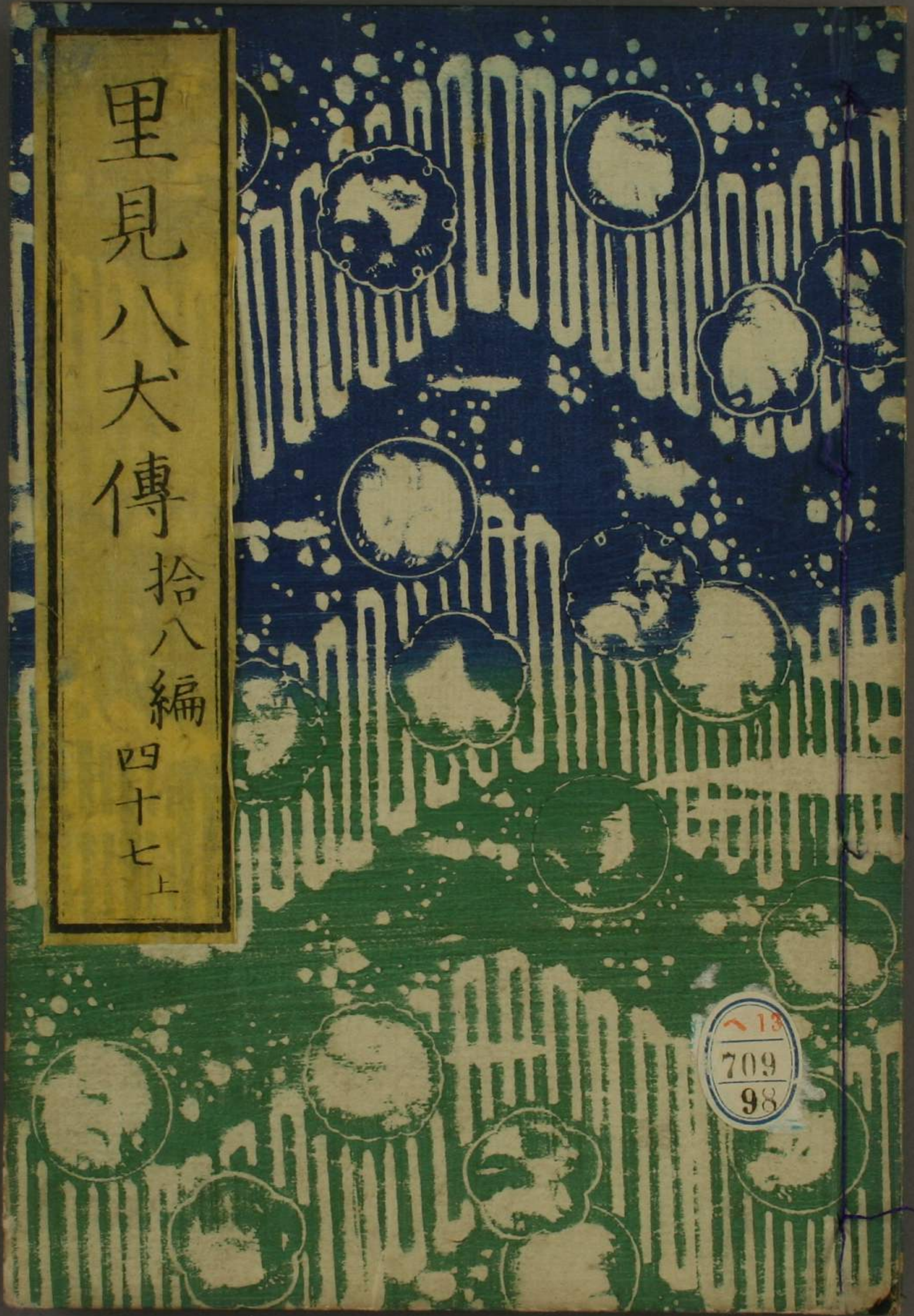




里見八犬傳

拾八編

四十七上



709
98



門 遠 13
 號 709
 卷 98



明治三六年
 十月九日
 購本

南總里見八犬傳第九輯卷之四十七

東都

曲亭主人編次

第七十八回

有種恥を雪ぐ郷黨を復歸せ
 大水陸小衆鬼を濟度む

是より先小犬山道節忠與も十二月八日の黄昏時候河奇矢口の河原小定
 正の援兵ある。巨田助友と撃走らせ折印東明相荒川清英等の意見小任
 せん故の海邊小退く程小馬淵場九郎が残兵及近郷多豪民の子弟毎
 が多く走重加りて既小多勢小作りく。姑且其里小人馬と憩へ。且當晩間
 謀見せり。五十子の城の虚実現せし。那里の夙く犬阪毛野が江を渡り来つ
 城を抜て威勢正小破竹の像く。當家の旗を四門小建て紛ふべく。わび
 との小道節聞て且歡び且羞く。明相清秀等小の。又智囊が逸早く。

五十子の城を攻落し。有徳は我の大石の大塚の城を援け。忍岡の城を捕る。疾打立ねといそぐ。人の飽みて戦飯を使せ馬も多し豆草を飼え。九日の曉天ふ河青ある海畔を立。陸地より菅原大塚を投て推寄せ。其兵新舊うち合して三千餘名小及びける。徳而犬山道節へ大塚の城近づく程先一二騎の介候を遣して敵の形勢を知らせし。其兵毎かり来て。那里の城へ御方の士卒入替りて守ゆ。建てる當家の旌旗戦幟多く見え。報へる。道節即ち騎る馬を駐めて呆る。半晌許原末亦智囊。那里乃城を捕る。然りとて這里まで来る。城を守ふ頭人等に對面せばいさむ。むさくもくとむり。我ぬ馬小鞭うち。既其城門小近づく。隨小馳て一兩個の士卒を走らせ。城の頭人小告う。小森但郎高宗木曾三介季元等。其虚実を問糾せ。疑ふべくもあらず。隨即門戸放開せ。道節をを迎へる。

當下犬山道節は三千の隊の兵を。開ぐ儘大塚の城外小住め在らせ。那身の明相清英と僅小三騎士卒百名許を將。城小入。高宗季元等。對面して當城を攻落し。其敏捷を譽て。且敵の洛方を尋る。高宗季元が。この。昨宵大阪の指揮小ありて。一千許の隊兵を將。當城小。向ひ。這里城守る大石が士卒等。管領昨日の水戦。小。負けて。落。其。往方。知ら。新五十子の城へ大阪小逆寄せ。没落多し。といふ。當城の頭人。反橋雜記。丁田畔四郎等。皮知。然。この。這城保ち。が。敵小逆寄せ。まぬ。間小。忍岡へ退きて。那里と一隊と。做らむ。と。雜記。主の大石が。宅眷小。己が。妻。奴。等。を。相添。第一番。小城を。落。丁田畔四郎。ハ。三四百の士卒と。俱小。各。資財。什物を。或。車。小。載。或。馬。小。駝。して。後。門。より。出。去。程。小。我。們。夙。推。寄。来。く。吐。と。嘯。を。攻。撃。し。る。然。ら。ん。ど。皆。是。怯。鬼。小。誘。引。れ。ぬ。城。兵。等。ハ。孰。も。挂。一。挂。也。

柱也。只雞蟻を散らぐ像く逃ぐ四客八落小做。我々も濡さ當
 城を獲く守家のこと。勿論那義ハ生拘の敵兵小少く所あり。と告る。公らも聞く
 明相清英憶むらも合笑れて事の便宜と大阪の軍畧智計と感嘆せ。并が
 中小道節ハ連り小耳と敬け。望果て且のいさう。現小兵と拙速を貴ぶべし。久く
 老巧あると良とせば大阪が為す所ハ速小と拙かむ。咱等ハ昨宵愁小。中途
 あり走加すぬ。兵毎小拘つらひて時後とぬ。悔一さ。然らんハ忍岡を。亦
 大阪小先せられ欵といふと高宗推禁めて否と。忍岡の城攻の事ハ。昨宵咱
 等ハ薦めりかども。大阪主従とぞ。那里ハ和君小讓らん。と。士卒紛けけ伐せ
 め。然れば亦五十子と。這城内ある落武者の威忍岡へや集合けん。然る那里ハ
 大勢あると告ると道節は。好々我らるる。暇まうさと身と起せば
 明相と清英と。又高宗と季元と。小別と。紙告て相従ふ。留め難う高宗季

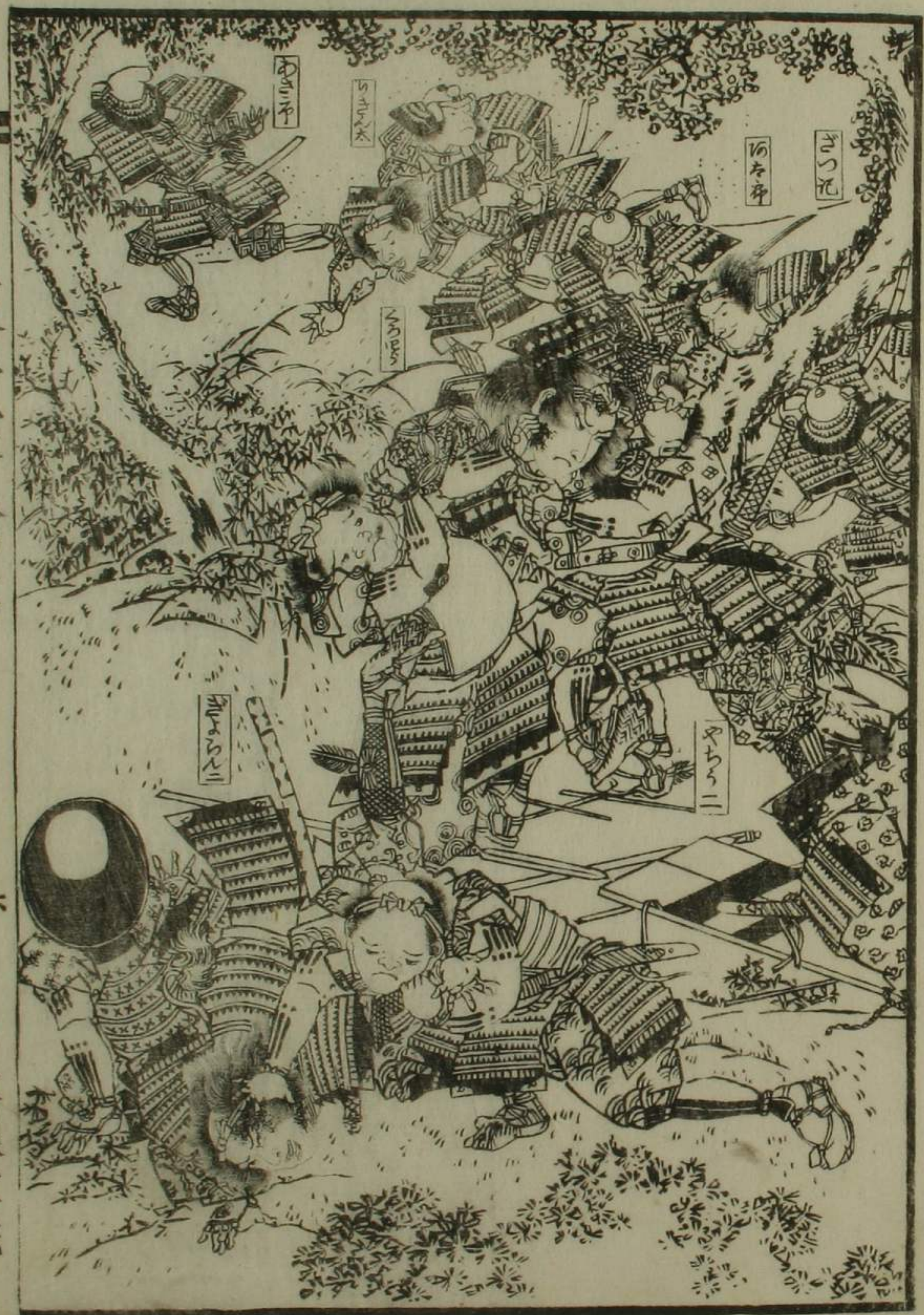
元猶も太向の小心を願わくことと。むら小。門内まで送り。然れば亦犬山道
 節と。大塚の城を退れ。と。并が儘老兵士卒に意衷と示して大阪既小忍岡
 の城攻を咱等小讓らんと。いひ。と。縦那城五十子大塚の落武者等がかりて
 幾千幾萬人盾籠りて防戦ふとも。今日我一時小踏潰さん。各粉骨推身して
 我を佐けて大功と做し。ね卒とくと。いそがせ。明相清英の。は。士卒咸諾して
 勇て其隊配小相従ふ。明相清英先鋒なり。道節ハ中軍。一。二の老兵小頭人
 を後陣と。も。隊伍齊々整々と。不忍の池の那方。忍岡の城を投く。も。向。當。日
 礪川湯島の間。も。森。々。岡。山。少。処。々。小。繁。り。拉。る。冬。青。樹。小。路。を。太。向。む。せ。
 既小と。犬山が一軍ハ湯島。過。ら。んと。表。ぬ。時。道。節。ハ。馬。上。り。去。向。と。佐。と。見
 且。急。小。先。鋒。の。士。卒。們。と。喚。止。め。て。且。宣。示。せ。り。我。今。前。面。の。茂。林。を。見
 小。正。に。是。隱。々。と。立。升。る。殺。氣。あり。意。ふ。小。敵。の。伏。兵。あり。疾。獨。出。て。撃

捕りねと誨る詞も果ね折る。件くだんの茂林もりより忽焉たちまちと威聲おどろ大く發りて、撃うち出です火銃かじゆの煙けむりと俱とも小頭こづかと也なり。敵兵かたへい約およ一千有餘よきあま、真まこと小找こぞむ其隊そのたいの頭人かぶと烏革くわ絨じゆの鎧よろい小同こどう絨じゆの五枚ごまい首甲くびかぶたの火形かたがた打うちを猪頭いのこ小被こま做まし、腰こし小大小こおほ二口ふたぐちの刀やいばを跨またへ、馬うまを跳はせ、鎧よろいを拵たて、四下よつしや小响こびやうく聲こゑ高たかやう小里見こさとみの葉武者はむしや們ら胆いそを潰つぶし、七なな角谷かくたに殿とのの御内みうち中ちゆうで忍岡しのがの城しろの頭人かぶと根角谷ねかくたに中ちゆう二麗にれい廉れん這隊このたい小在こゝにり。先度せんどの恥はにかみを雪ゆきま、本ほん事じをいふやと喚こゑれ、左右さゆう小從こじゆふ西個さいこの小頭人こづか赤耳あかみみ九く二郎にらう當場まじやう阿太郎あたらう士卒しゆそと駈かく三七さんじ二十にじゆ小殺こころ類るいえんと競まを蒐ぞむ。明相めいさう清英せいやう毫ごとも謀まむ、徐々じゆじやと士卒しそと找ため、中ちゆうで割わせむ、左右さゆうとも較くらむ。道節みちせつも亦是またと助け、息いきをも養やしなむ、挑戰てんせんふ左右さゆうの茂林もりの方かたより、又また起たり立た二隊ふたたいの軍兵ぐんべい箕田みした馭ご蘭らん二に非見ひけん利金りきん太布たふ留川るいせん浅市せんし甲か乙おつ三騎さんき其兵そのへい約およ莫な千許せんこ道節みちせつが備そなの真中まぢゆうへ咄おほいと嘯おほいく推お蒐ぞむ、道節みちせつ謀まむ、用もちひ合あはせて、右みぎ小引こひ受うけ、左ひだり小拵こぞへ士卒しゆそと使つかふ、小拵こぞの像さうく、毫ごも透す回まわるとる、けし、明相めいさうと清英せいやうは是これ小

氣きをひくきと推おく、閉戰へいせん陣ぢんを折おく。後陣ごぢんのか、小又こまた敵かたあり、是則これすなはち別人りたんとあり。大塚おほつたの城しろの頭人かぶと反橋はんはし雜記ざさき丁田ていでん畔はた四郎しらうが其隊そのたいの残兵ざんべい四五百しやうご名なと真先まへよ找ため、犬山いぬやまの後陣ごぢんを較くらむと急いそむ、ければ道節みちせつが其隊そのたいの老兵らうべい小頭人こづかも皆みな駈かれ、慌あわて返かへり、合あはさる小暇こひまあり。這隊このたいよりを敗やれ、是これ小敵かたの威勢いせいをひく、前後ぜんご左右さゆう揉も合あはせ、漏もれ、とぞ攻戰こうせんふ、鋒ほう尖せん銳えいかり、道節みちせつの物ものともせむ、馬うまを前後ぜんご小馳こち融とく。又また只ただ左右さゆう小相中こさうぢゆうり、鎗やりて敵かたを刺さす、武藝ぶげい驍せう勇ゆう向むかふ、小前こまへより一人ひとり當あたり、いとぞもある、犬士いぬし小誰こたれく克かつつ者ものあり、箕田みした馭ご蘭らん二に非見ひけん利金りきん太布たふ留川るいせん浅市せんし甲か乙おつ三騎さんき其兵そのへい約およ莫な千許せんこ道節みちせつが備そなの真中まぢゆうへ咄おほいと嘯おほいく推お蒐ぞむ、道節みちせつ謀まむ、用もちひ合あはせて、右みぎ小引こひ受うけ、左ひだり小拵こぞへ士卒しゆそと使つかふ、小拵こぞの像さうく、毫ごも透す回まわるとる、けし、明相めいさうと清英せいやうは是これ小

東明相荒川清英は這時も根角谷中二赤耳九二郎當場阿太郎等の一隊と
挑戦ふ程小左右後陣の敵兵も咸道節小撃破られ立脚もる倣りく敵の
頭人谷中元二郎士卒も俱小驚怖きて呀と叫び敗れ走るを明相と清英ハ隊兵
を馳攻伏々明相根角谷中二小鎗を合せ多を瘡して馬より撞と突落も其間
小荒川清英も赤耳九二郎と刺仆し又當場阿太郎小を瘡して猶も雙て敵撃
這壯佼等の挿死小躬方の勇え後れんとを怕と敵の影と躲一迹を埋る闘戦風
果く道節の開ぐ儘小馬を樹下小騎居て士卒の集合ふ候程小印東明相
荒川清英も生口根角谷中二と雜兵小牽せ来てよ餘敵の小頭人赤耳九二郎
當場阿太郎と喚做と兵毎深瘡小堪む死まふ其首と捕むと云又道節
が隊小生拘る箕田駒蘭二ハも深瘡ふくめりゆるといふも非見利金太布留
川浅市反橋雜記丁田畔四郎等ハ或ハ戦れ或ハ逃亡敵一人もむびりぬ當下

道節ハ明相清英等が今日の挿きと譽て且のふやう我聞箕田駒蘭二ハ五十子
の城の留守居り又反橋雜記丁田畔四郎ハ是大石が兵頭小て逃く大塚より
来たるあんと又根角谷中二赤耳九二郎當場阿太郎等ハ則忍岡の頭人然るを
五十子大塚の城の落武者等が谷中二と一隊小倣りて我と中途小撃せし
所以あるを猶思ふ小谷中二ハ間諜をりて我去向と知りて情地小城を出ん
這頭小埋伏して我と撃せまく欲する程小駒蘭二雜記等兩城の落武者每ハ料ら
む其首小落合て却大勢小倣りたるあんと又ハ明相然と答へて現小推考
然もいぬ愚按いぬども敵の遺せし旌旗戰幟われば開せり根角谷中二が
かへり来ぬると佯とて忍岡の城小造らば城兵必欺まき城門と開れ吾を容れん
と云ハ清英もその義と喜と登時我ハ先小找え多く小唾く城と捕へいせせのへと
薦まハ道節頭とち揮て其計畧及れ小あねど根角が残兵脱還らば城兵



蝨く我詭詐と知らん且野干王の鳥夜多る其計畧行いともせめ非如敵の旌旗
戦幟のく揃らま欲するとも今這白晝に城小益まへ面善見のる故よ城兵
必疑ふべし然危き技とせんり今谷中二馭蘭二等と明明地小曳吊ぬれ見せ
城兵等と罵て權さへ城兵必害怖ま我小降らん倘又城小猛者わく防戦ま
欲するあふバ筋力せぬ是と捕らん外小援のる城之踏潰ま小の障没ひや卒
わくをいせ馬と我れハ明相清英の議小任して既小半生半死多る谷中二と馭蘭
二等と雜兵小吊らせ先小立り明相清英先鋒より道節も推續れり三千の從兵
前後と乱さる既小く忍岡の城小迫づれ来ぬ程小と人小正門の堀の内城樓
の下小中黒及揚羽の蝶の花號添做る旌旗騎馬表と幾流り建てる寒北西北
の風のましく翩翩る光景小他の甚麼とむり小明相清英のささり道節即
並小從兵們も肩と擲めり疑惑ふて思ひ難る升が中小道節の人をり明相

清英小いとさるや今這忍岡の城小躬方の旌旗と建てるハ只是我を惑る敵
の計策るる然る亦智王が薄情や我と脱し技まて風く這城も攻捕るる且
城小向て名告喚りて那虚実と現るるといふ小明相等あるゆへ馬と正門の橋近く騎
我れと聲高やう喚るやうと城內の人々小のいへん這城の頭人敵欽躬方欽あろ
ゆがり我れ里見の防禦小頭人印東小六明相荒川太郎二郎清英是之這隊の防禦使
犬山道節主の武勇をり方僅来ぬ中途少く當城の頭人根角谷中二及五十子の城の
頭人箕田馭蘭二等と戦ふ且疾負せ生拘りて牽せ来て這里小在り門を関人
迎へてと縁返り呼りて城兵等ハ心と答へ先挾懐と関り左見右見ると半响
許航く城門を関せ頭人とおぼる武者葱白絨の鎧小繫鉄打釘媿頭の脛衣
穿て短小締做り黄金製作の大刀を佩りて頭鎧を從者小持せるが十五二十名許と
從て遠く出て来つるる名告答るや犬山主那里小在る恁の我れ諸餘之

七有種ふていぞと報知せり。近づく程、小相と清英、豫安知事、那人、欽思ひ、いぞと
 むかり、引て道節、逢まれば、道節、遠く馬より、閃りと下立く。あは、落點、生一別
 以来、和殿、亦幾の間、小當城と攻落した。料らざりたる、對面、こそ其所以、ま
 り、けと、向、有種、さ、小可、出沒、言、一朝、小聲、く、先、城内、俱、は、人、馬、と
 懸、ひ、ね、と、答、却、明、相、清、英、等、小、名、對、面、多、勞、引、て、城、中、小、請、ま、れ、道、節、ハ、明
 相、清、英、等、と、俱、小、找、入、る、程、小、自、餘、の、老、兵、小、頭、人、們、由、士、卒、と、徐、小、練、合、て、三、隊、小、別
 れ、東、西、小、聚、ひ、て、乱、雜、あ、る、る。倭、而、落、點、有、種、ハ、道、節、及、明、相、清、英、等、を、誘、引、て
 城、の、正、廳、小、造、る、程、小、五、十、有、餘、の、法、師、武、者、と、落、點、の、家、の、老、僕、小、才、二、と、穗、北、の、故
 老、們、出、迎、へ、上、坐、小、請、待、多、賓、主、の、席、定、り、て、多、火、の、火、盤、鷹、め、且、前、茶、着、め、る
 と、當、下、道、節、ハ、有、種、ふ、ち、向、ひ、て、昨、日、洲、寄、の、澳、の、水、戦、小、犬、阪、が、計、畧、と、り、大
 敵、と、血、小、ま、け、り、の、始、ゆ、り、道、節、が、敵、の、副、將、朝、寧、を、射、て、水、中、小、隊、表、し、り、の、又

河、青、河、原、小、定、正、と、赴、擊、一、時、巨、田、助、友、が、援、兵、の、り、又、あ、く、來、ぬ、時、湯、島、多
 岡、山、の、根、角、谷、中、二、箕、田、馭、蘭、二、友、橋、雜、記、等、の、三、城、の、合、兵、と、閉、戦、克、て、谷、中、二、馭
 蘭、二、等、と、生、拘、て、牽、り、來、つ、る、の、終、り、ま、て、其、本、各、と、説、示、し、て、却、落、點、が、上、を、向、ひ、
 有、種、ハ、さ、り、毎、小、感、歎、せ、む、と、の、を、と、る。義、成、の、武、德、仁、政、二、天、士、の、才、畧、武、勇、と、言、
 る、大、方、あ、る、と、小、可、が、上、へ、も、首、と、り、箇、様、々、々、尾、ハ、又、倭、々、做、り、と、言、詳、小、説、出、を、
 道、節、明、相、清、英、等、ハ、齊、一、耳、を、歌、へ、俱、小、佳、境、小、入、り、ふ、る。其、顛、末、を、尋、ぬ、小、初、落
 點、有、種、ハ、扇、谷、の、討、隊、の、頭、人、箕、田、馭、蘭、二、と、根、角、谷、中、二、が、身、勢、と、領、と、ち、向、ふ、と
 改、へ、時、妻、の、重、戸、が、諫、み、あり、と、急、と、郷、黨、小、告、知、せ、て、穗、北、の、家、と、自、焼、多、郷、人、と、咸
 相、伴、ふ、重、戸、の、叔、父、の、い、ま、を、か、り、下、總、の、國、後、嶋、郡、誼、夾、院、村、小、赴、き、て、那、小
 父、小、危、窮、を、告、げ、推、且、這、里、小、潛、び、居、り、抑、當、村、小、誼、夾、院、と、喚、做、一、座、の
 修、驗、院、あ、り、け、り、住、持、ハ、豪、荊、と、い、ふ、山、伏、也、昔、ハ、子、院、四、十、八、寺、あ、り、小、近、世、痛、く

衰々今日本山のこゝれども。其餘波近郷不在。皆半僧半俗。武藝を好み。且
各々耕一耘りての口と餉へども。尚本山の事ある時。四十八院咸集。以て相資けざと
いふこと。況て豪荊法印。其性物小任。使ふに法師。似げらる。腕扱るれば平生小
弱。死と助け。強きは折死人の不平と解ま。然るに今落點夫婦。寛家の為小地を
棄家と焼。宅眷を携へ郷黨と相伴ふ。情地小あ。小尋ね来。事の難。告
知せ。其資助を憑。一。豪荊の推辭。氣色。最精悍。一。管待。落點の
宅眷。は。と。穂北の郷人。子。弟。西。東。小。潜。甘。く。是。を。舍。藏。と。五
六角。小。做。り。比。忽。地。扇。谷。定。正。の。里。見。と。攻。伐。の。ゆ。え。て。内。頭。定。と。西。旗。小。且。諸
侯。を。連。ね。兵。を。合。せ。水。陸。より。ち。向。ふ。と。云。大。兵。約。莫。十。萬。餘。騎。陸。行。德。國。府
臺。水。路。の。安。房。の。洲。寄。と。投。て。攻。寄。と。風。聲。あり。其。言。血。浪。を。う。た。げ。れ。ば。有。種。之
驚。鳥。を。憂。ひ。て。情。地。小。法。印。豪。荊。小。意。衷。と。示。と。談。む。り。里。見。殿。の。早。裏。小。我。義

父水垣夏行公羽の老病小臥。一折東西賜。恩恵あり。然らば彼父士。咱
も幸小一面の交を辱く。丹中。小。犬。山。道。節。忠。與。の。原。是。煉。馬。の。殘。黨。を。且。小
我。舊。君。豊。眞。殿。と。同。宗。の。家。臣。なり。死。の。故。小。裏。裏。小。那。大。士。の。每。幾。番。我。小
薦。め。て。里。見。小。仕。へ。と。い。え。れ。り。と。も。其。比。小。水。垣。翁。の。老。病。を。看。放。ち。と。且。公。羽。が
因。發。相。傳。の。田。園。と。棄。て。他。郷。へ。移。ら。ん。の。本。意。を。知。り。い。ま。果。さ。ば。り。け。り。小。幾。程。も
る。禍。鬼。起。り。と。穂。北。を。棄。て。走。る。時。い。ま。安。房。小。赴。き。て。犬。士。小。就。て。里。見。殿。小。仕。へ。と。
人。の。い。く。と。然。し。も。一。介。の。功。も。有。り。身。の。措。処。あ。ら。び。と。安。房。へ。い。る。い。さ。ま。と。く。竟。小
這。地。小。来。つ。る。り。余。多。小。今。里。見。殿。小。大。敵。あり。危。窮。存。亡。の。秋。と。時。を。う。ら。報。恩。此
義。小。及。む。と。い。ふ。勇。士。の。本。意。と。ま。り。次。小。身。一。臂。の。力。を。勳。し。て。我。を。帮。助。て。軍。功。を。立。る
と。と。い。ふ。を。め。の。其。功。を。と。り。里。見。殿。小。仕。へ。と。二。小。家。を。起。さん。這。義。誰。何。と。請。回。へ。豪
荊。つ。ら。と。听。り。莞。然。と。う。ち。笑。く。和。殿。の。情。願。極。て。佳。里。見。殿。の。賢。君。小。且。仁。政。の

先回謀兒をのり。寄隊の来方を撈るべく子院の甲乙穂北の郷人を召集へ他は
 意見を支べし。次の日件の毎を招鳩め。かまを告ぐ意見を同ふふ。大家死を
 資んとて各神水を啖り誓言を考つ。悄悄地軍陣の準備を倣ふ。程ふ。十二月初旬
 ありぬ。その時豪刑が遣したる。同謀兒かり来て。寄隊の来方を報ると。少くも陸
 地。國府臺へも向ふ。寄隊兩大將ゆく。如此々々。又里見方の義通君を大將ゆく。
 犬塚大飼防禦使より。又行徳只の如此々々。洲崎の箇様々々と三所西敵の交を
 せぬ。隨ふ報あり。登時有種の真家刑們小談ぶるや。今我義旗勤軍の届る
 所。洲崎ハ路遙ふし。事の急ふ逢ひぬ。行徳國府臺ハ便路ふ。且遠く。ど
 就中國府臺ハ寄隊數萬の大軍ふ。頭定成氏西將る。況る里見方ハ義通
 君大將ふ。犬塚大飼防禦使る。這隊ふ。就て軍中を盡さん。然らば。事をいそぐ

たり。不慮の軍陣。身故ふ。左小右小東西。整へ思ふ。似る日を過し。十二月八日の早天。小
 有種并小法印豪刑を両頭人ふ。四十八院の山伏穂北の郷黨を。子弟小至は。身を
 壯る者二百五六十名。甲冑器械。延席。小裏。こら。各々。是を搭駝。國府臺を
 投く。いそぐ。め。路。近。か。ね。時。移。り。て。その日申の左側。國府臺の近村。小来。て。少
 隔。昨日。あり。の。閉。戦。小。寄。隊。ハ。酷。く。も。負。く。今日。も。山。内。許。我。の。西。將。ハ。落。し。て。飲。殺。れ
 たる。飲。敵。ハ。一。人。も。わ。ら。ぬ。但。里。見。の。防。禦。使。ハ。い。ま。當。城。小。来。り。其。言。疑。ふ。も
 わ。ら。ぬ。有。種。豪。刑。前。の。り。ら。る。こ。這。隊。の。僧。俗。勿。地。小。望。を。失。ひ。呆。れ。果。て。い。ふ。せ。ま。し。と
 うち。相。譚。ふ。小。有。種。一。霎。時。沉。吟。ど。閉。戦。既。小。事。果。て。今。は。城。小。參。り。鄙。語。云。閉
 諍。の。後。の。棒。三。味。只。胡。慮。小。做。ら。ん。の。を。因。て。憶。ふ。小。寄。隊。酷。く。も。負。く。性。方。也。知。ど
 做。り。し。と。の。約。莫。豊。鳥。小。在。る。所。の。敵。の。城。ハ。士。卒。咸。耳。怕。と。脱。路。を。見。る。あ。ん。就。中
 忍。岡。の。城。の。頭。人。ハ。我。郷。黨。の。怨。む。根。角。谷。中。二。麗。廉。ら。る。他。ハ。貪。り。く。飽。と。る。く。

民を虐めて罪を殺すと大魚の細鱗を呑ぐ如く。其惡箕田馭蘭二と伯仲を
 先や今宵那城を攻落すと谷中二を生拘へ大塚石濱の兩城の攻どとも必落んとの
 美什磨と請問へ。大家ひらく諾みて。開き究竟の使遣る。然らばのげと矢斫の
 河も宮門河をもち渡りて不忍の池の畔に來ぬ程に夜は丑三小作りぬべし。酷く
 走りしとる。六寒夜も皆汗ぬる堪む喘を止めて。這里那里小立休ひ。又相譚
 ふふ。豪刑聲を悄しく。今這小兵をりて。城を抜まき。欲する小助力をりて勝を取
 かさる。只詭の計ふ。多とる。其計策は箇様々々と詞急迫しく。叫れ示せば有
 種自餘の僧俗も。少く者歎き。甲小作く。小作く。大家其意を。ゆり。六
 有種豪刑。六ささ。躬方の僧俗二百五六十名。搭駝來る。延裏を。各解
 披ひて。武器小身を固め。大刀を跨器械を携へ。齊一脚を乱ら。走りて忍岡の
 正門小造り。城門を敲る。聲震立て。やを。城内の人々。誰う。今日の開戦利

わる。と行徳并小國府臺。と總頼。まふ。御方の主卒。幾千名。欽陳。没
 たる。開中。小御曹司。朝良。幸。一方を。殺。目今。當城。小渡。せ。り。迎
 奉ら。と。練返。し。の。時。這。忍岡。の。城。兵。們。行。徳。只。寄。隊。の。士。卒
 幾名。欽。方。僅。ま。小。脱。來。て。寄。隊。敗。軍。の。為。体。朝。良。の。辛。く。と。近。習。の。士。小。資。ら
 れ。兩。國。河。原。の。方。小。落。さ。を。御。往。方。を。知。む。の。城。兵。是。小。驚。謙。だ。頭。人。根。角。谷
 中。二。小。告。知。せ。在。頭。當。場。阿。太。郎。赤。耳。九。二。郎。小。頭。小。栗。專。作。等。も。ち。集。合。し。商。量。ま。る。小
 谷。中。二。の。小。中。里。見。の。大。士。等。勝。不。來。て。當。城。小。逆。寄。其。人。も。ち。這。城。小。防。戰。を。も。幾
 ま。心。の。柱。心。所。詮。敵。の。旗。の。見。え。ぬ。間。小。宅。眷。を。穂。北。の。別。莊。落。し。遣。り。て。後。目。勿。く。進。退
 せん。と。猛。可。小。城。内。の。婦。幼。小。老。兵。を。練。ま。と。と。悄。地。小。後。門。あり。小。遣。り。ける。事。慌
 志。折。る。小。今。又。定。正。の。嫡。子。朝。良。の。敗。績。を。行。徳。より。脱。ま。ぬ。と。少。く。者。誰。り
 驚。ぎ。ん。慌。へ。城。門。を。開。む。と。せ。と。這。隊。の。小。頭。人。小。栗。專。作。吐。嗟。と。り。推。禁。め。之。等。ね

兵每非如御曹司の渡らざらんとも。野下玉の夜ふ甚麻どやいも。虚実を質さびりと。大
 門を開くもやある。先御曹司と二の近習と容まらざるを後ふも。御伴當と饒へれ。角門
 よりもくと下知小門子応をあら。卒先郎君入らせるといひ。角門より。衝入る者を別人
 るも。落點餘之七有種と。誼夾院の住持法印豪刑及其徒弟西個の勇僧突面
 坊豪師枕坊豪著ると喚做し。武勇剣法覚る。四人齊一腰力を抜くも見其
 守門の雑兵四五人斫仆と返る刀小專作が片腕托地と釘かけて斫られ苦と叫びも果む。
 醫居小挫と平張けり。是もを駭怖る。衆兵敵あり敵ありと喚りて逃る透さ。走菴と
 斫仆。又斫散を其間小外面る。僧俗二百五六十名角門より。稠入る豫て準備小集来る。
 中黒の旗豊島の旗を九尺柄の鎗尖小結附と突と推建々聲高やう小里見の防禦使
 犬川犬田が先鋒の頭人落點有種小在り。新附の修験者誼夾院豪刑小在り。
 と名告被け相喚りて二の城門投て攻入る程小根角谷中二赤耳九二郎當場阿太郎老兵

頭人既小皆鬼胎を抱きて宅眷と落せ。折多小果と敵ハ逆寄きて大川犬田落點ると。
 咸城内小攻入りけん名告諸聲やえり。いやく敵驚れまもく。怖と柱一柱も防ぎ。いやく
 响子小群島の潑と立像く後門より。群を突て逃出れば城兵約莫一千有餘勇も不雷
 推並てうち續たてて逃去りける。然る落點有種ハ思ふ小似む城兵の腕と骨を打を
 もる。今立地小怨を復と會替首の恥を雪め。小豪刑と俱小射方の僧俗を旁ふて
 撃捕る所の敵兵を実檢する小當城の小頭人穴栗專作を首めて刀瘡見死人七十名これわりのこ
 這餘ハ皆悉落亡て一時小城を獲りける。井中穴栗專作ハ深瘡されどもいも死をぞ
 他ハ根角谷中二箕田馭蘭二等と同患ゆ。民を虐げ。非義を恣よる。奸賊をばさ
 儘繫く。結丑せ。且城内を展檢する小婦幼も遺る者多。米粟尤多あり。駭て四
 門を守らざり。却牢舎あり。世智介并小梨八夫婦及穂北の隣村多。莊客と其妻子弟を
 罪多と緝捕れ者三十名を扶出ま。他等ハ久く禁獄せ。且呵責の竹小堪ざり

けは皆半死半生ありと幸ふ命恙なけし。有種豪刑勅り慰めて準備の基と
 與へるとも皆雨室の臥をめて火をとり那身を温めし。世智介梨夫婦はさう其
 毎推さる。墮獄の餓鬼が佛菩薩の救ひをいふ心地と皆感涙を落さず心不飲
 ざるへるりける。丹が中世智介の裏小小や二と共侶小主の密使ふ立時梨許立寄す
 とも酒乱小己を忘れて那禍鬼を惹き出さし。落船一家隣村の莊客も其餘歟ふ
 遇せし罪輕たふあねども只是一時の口過ふ。素より悪意ある者なれば有種今々
 深くも憎まざれば其以後を敬言懲して療養餘の人も異るる。世智介は且怖且感服
 志て聲を吞み泣けり。介程小根角谷中二赤耳九郎當場阿太郎等へ二の城兵あり
 る。防戦ふ心も慌て城を逃去る。又思ふ後難の怕れあり。徑小五十子の
 城小参りて箕田馭蘭二等小力を勦と。那里小敵を待んと其方を投て行程小又那
 箕田馭蘭二と大阪毛野胤智小鈍くも城を攻落され。貫利金太布留川浅市等と

俱小城兵多く從へ。這方を投て來ねる小逢ひけり。又只是のこ小わび大塚の城の頭人
 反橋雜記丁田畔四郎等小主の宅眷小相俱と。城を落て來ふけし。谷中六秋びと今這
 二隊の幫助を借りて。又忍岡の城を令復さんと。馭蘭二雜記小商量さす。雜記も
 亦への議を好す。然俱一女性達を五十月の城遣て後安く做さんと。主の憲
 重憲儀の妻子と己等が宅眷少。老兵八九名を從せて那里へと落。遣程小但見不
 西北のこよりして。來ねる一隊の敵兵あり。其頭人正小是犬山道節忠與る。谷中馭蘭二
 雜記も。夢小も知む。只是鳥合の野武士等が。御方の敗軍を安知り。或は落人を刺
 畧く。或は城を攻破り。不義の利を欲する。先那奴們を撃捕り。其威勢小
 乘して。忍岡の城を令復さんと。三隊を分ちて四所小埋伏をたて。小多道節
 明相清英等小撃破られて。刺馭蘭二谷中二生拘られて。這里小牽多。利金太淺
 市雜記畔四郎等。其隊の每共侶小撃れ。欽逃。欽存亡知む。做り。然ど

今落點有種。大山道節。小解知せぬ。那身の来方。豪荊が義侠及當城を攻落
 ぬ。顛末又告口の敵兵の招了ぬ。知れ方。根角谷中二箕田。馭蘭二及橋雜記。
 落合。今も都て上。如く小わなれ。道節ハ。毎小感歎の聲を。込断。を為小貌を
 改めて有種。小向ひての命。思ふ小優。方。和殿の武畧。豪荊法印の義侠胆勇。多
 ぶ。が美談。る。哉。就。て。這。生。口。馭。蘭。二。谷。中。二。專。作。等。ハ。年。来。其。君。を。惑。て。榮。利。を
 欲り。那。民。を。虐。け。く。罪。を。害。する。の。甚。く。と。云。え。方。然。バ。今。番。定。正。小。説。薦
 ぬ。多。名。の。軍。を。起。さ。せ。人。を。も。身。を。も。喪。ふ。の。皆。是。這。奴。們。群。小。の。致。也。所。と。我。等。異。日
 安。房。率。も。て。参。ら。ハ。亦。是。館。義。成。の。御。仁。心。ぬ。者。免。れ。ん。ぬ。知。る。か。今。速。小。誅。せ
 ぬ。何。を。り。よ。く。勸。懲。を。正。さ。ん。權。且。牢。獄。小。係。置。て。明日。八。劍。小。行。ふ。べ。と。敦。圀
 猛。く。罵。示。せ。ハ。隊。の。兵。每。阿。と。心。て。谷。中。二。馭。蘭。二。專。作。等。を。俱。小。率。立。て。退。出。け。り。
 倭。而。大。山。道。節。ハ。這。地。の。の。の。趣。と。落。點。有。種。の。の。の。も。洲。崎。の。御。陣。へ。注。進。せ。り。

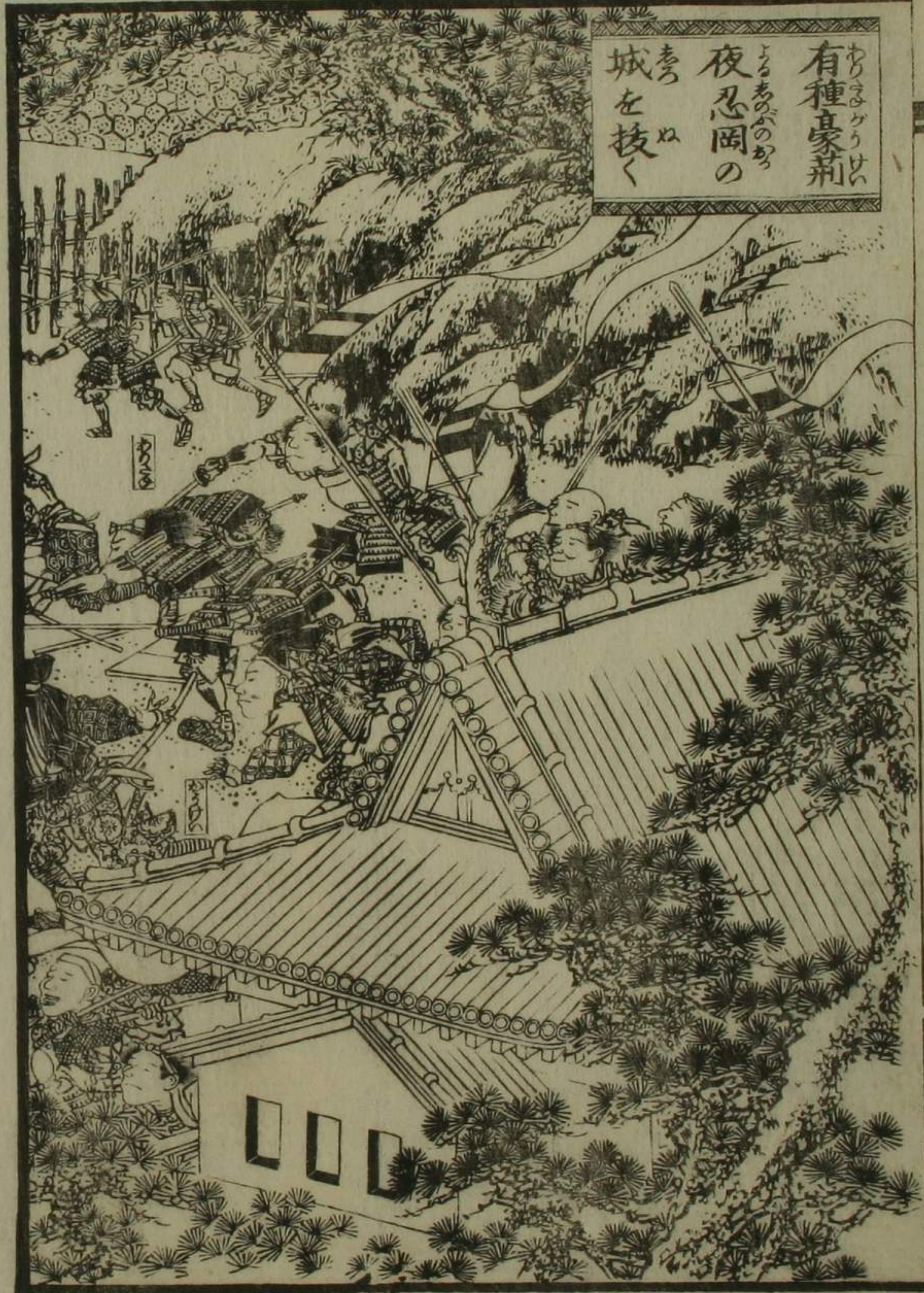
犬阪も示し合せんと。馳く呈書一通と。毛野小與る。子簡之遺る。自書寫めて。心
 利。士。卒。四。五。名。小。事。倭。と。分。付。て。件。の。書。翰。を。齎。る。先。五。十。子。の。城。小。造。り。犬。阪。別。談
 る。ハ。水。路。を。洲。崎。へ。参。れ。と。い。そ。グ。一。先。を。遣。け。倭。而。次。の。日。這。豐。嶋。郡。多。壯。客。百。十
 數。名。穗。北。の。隣。村。多。者。毎。を。先。小。立。て。忍。岡。の。城。小。來。て。道。節。小。訴。る。や。今。番。生。拘。せ
 ぬ。箕。田。馭。蘭。二。根。角。谷。中。二。此。栗。專。作。我。們。が。親。兄。弟。の。冤。家。小。い。ハ。い。そ。那。身。を
 賜。り。て。所。切。と。亡。人。の。怨。を。復。す。欲。し。ハ。の。妾。を。許。さ。ぬ。ハ。と。異。口。同。様。小。願。ふ。そ。
 道。節。听。け。領。ま。て。現。小。然。も。わ。む。今。這。時。小。民。の。冤。を。解。せ。ぬ。ハ。善。惡。ハ。報。の。天。理
 空。小。似。方。他。們。が。情。願。小。任。せ。よ。と。隨。即。馭。蘭。二。谷。中。二。專。作。を。牢。舎。より。出。さ
 せ。其。莊。客。們。小。拿。ら。る。小。檢。使。の。主。卒。を。遣。え。大。家。都。く。歡。び。勇。ま。て。則。馭。蘭
 二。谷。中。二。專。作。を。受。命。り。の。率。立。て。馳。て。城。外。小。牽。引。て。其。罪。を。責。罰。り。馭。蘭。二。谷。中。二
 專。作。を。二。個。々。小。誅。す。小。先。を。所。落。し。胸。を。劈。ち。大。小。腸。を。裂。ち。竟。首。を



八代傳七陣表四十八

十五

大受堂



有種豪荆
 夜忍岡の
 城を抜く

八代傳七陣表四十八

大受堂

擊落まふ猶怨盡さず壯客の悍く壯る者毎其穴を咬ふもわけり。檢使則其首三
 級を梟首てもて速近示えし。觀者且毎小堵の如く愉快とを稱えし。其時世智
 介梨夫婦并小穂北の隣村人の牢舎小疲勞る病臥者毎其疾病瘥り果六
 道節則其村人小是を渡して皆其家小還ることをいひて其大家其再生の因を拜多
 喜悅の聲洋洋と耳小盈く民の父母とを稱えける。其日法印豪前も有種道節明相
 清英等小別を告ぐ其令下總小猶落船と穂北人們の宅眷も野納も久くあ小留る
 ぐは身の暇を賜べといひて有種も道節も今さら小禁難く則其意を任するの道
 節ハ只管小其軍功を譽るの令。和僧今奮の挿死の勇士も及び其所之異日寡君の
 元上る恩賞望の隨るべしと其あるをいひて其豪前是を安んずるを然る望を
 せん落船俗縁の義小仗る所己とをいひて聊か小力を勸して為小怨を復るのこ
 其美の本意小いも暇票を身を起して二百有餘の黨類を感召集會はせりして

俱して誼交院村へ還りて以嶽嶺者るるなり。是より後近郡近郷る郷士豪民の
 善小與して里見の徳を慕ふ故小道節が隊小附き欲く。當城小來ぬ者。日毎々小
 多かりけし。道節が軍威小く壯み。一萬餘騎を造りふける。當下有種ハ又道節小
 談むる。當城ハ大人既小將とて。印東荒川の勇士あり。且軍兵小置かぬ在下小
 居ても要る。小我穂北の壯根用谷中二。是を別壯小して家作苛めく。建連る
 とぞいふ。今這時小會復さむ。孰の目を俟べ。明日ハ故郷人等小を招く。那里小
 うち入りて。敵尙殘居る者ありとも。獵場の獸小似さるべし。一個も漏さず。數捕りて
 と喘を道節勇と譽て其諷寒小をく。遮莫敵を侮らば必や行む。我五百個の
 雄兵をのり。和殿等を送り。せん戰飯軍用の錢財ハ當城内小多あり。和殿の隨意多べし。
 といふ。有種怡悦小堪む。遠く退る穂北人等小那美を告ぐ。準備風も整へし。
 六次の日の早天小落船餘之有種小也。世智介梨公等及穂北八百五十名と大山が加勢の軍兵

五百名を前後せんごふまきまりり騎馬きまのり丸甲まるか曹そう器械きか細こ名な状じやうままぐぐババ既すでにに有あ種しゆのり穂ほ比ひのり庄ぢやう近ぢん
 程ほどのり這は里りのり根ね角かく谷たに中ちゆう二に穴あな粟あは專せん作さく等らのり客きやく眷けんのり敵てきをを避よくく在あるるもも多おほかりり或あるはは又また那な奸けん黨たう小せう諛ごん
 媚めい利りをを欲ほむむるる莊ぢやう客きやく賈げ賈げのり家けをを作つくてて居ゐるるもも勘かんろろううざざりりふふ忍にん岡おかのり城ぢやう有あ種しゆのり攻こう落らくされれく
 谷や中ちゆう二に專せん作さくのり道だう節せつがが隊たい小せう生せい捕ぼられれ竟つひ小せう誅しゆ戮りくせせれれとと父ちち知しりりとと駭おそ怖おそれれ慌あわ惑あわひひとと逃にげ去さるるく
 欲ほむむるるとと穂ほ比ひのり隣りん村むら人びと等ら追お蒐そるる鋤あ秋あき釜かまををのりてて蝦えびをを殺ころすすもも多おほかりりとと其その事こと後ご小せう説せつるる
 然しかるる有あ種しゆのり於お是こゝ重おもむむるるもも濡ぬるる故ゆゑのり莊ぢやう園えんをを拿と復かへししけるるのりこころろとと谷や中ちゆう二に建たてて尙なほ新あらたしし死し
 廬い舎しゃ多おほくくああれればば其その身みのりはは郷きやう人びと們らのり分わちち合あははれれるる膝ひざをを容ゆるみみ便べんりりああけけてて四よ面めんをを歴あるる
 郷きやう人びとをを幾いく名な飲いん下げ總そう獲かく嶋じまのり誼ぎ夾けつ院えん遣つかるる真ま家け荆けい并へい小せう子し院えんのり勇ゆう僧そう們らのり多おほくく東とう西せいをを贈くわ
 するるととももてて自じ他たのり客きやく眷けんをを召よ返かへせせららるる有あ種しゆのり妻つま重おもむむるる首くびをを首くぶぶ郷きやう人びとのり母はは女むすめ房ぼう老らうるる杖つゑのり
 携たるるはは袱ふく裏うら箒はき等らとと搭せ駝たひひ穉せま子このり手てをを掖おさむむとと皆みな飲いんびびをを飲いんみみるる然しかれれ
 ども穂ほ比ひのり猶なほ敵てき地ぢをを大おほ山さんがが加か勢せいのり五ご百ひやく名な并へいけけ儘まま這は頭あたまのり在あ陣ぢんとと久くくくるるもも多おほかりりとと成なるるもも多おほかりり

